

ルカによる福音書 16章

1 イエスは、弟子たちにも次のように言われた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄遣いしていると、告げ口をする者があった。2そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』3管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。4 そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』5そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。6『油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい。』7また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』

8 主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。9そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。10ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。

11 だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたがたに本当に価値あるものを任せるだろうか。12 また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。13 どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

「この不正な管理人」とか「不正にまみれた富で友達を作りなさい。」という言葉があるので、何となくわかりにくい感じのお話です。

でも、完全な賜物は神さまからのものであり、お金は人間が作り出したものであって、お金での幸せは必ずしも神さまからの賜物と同じではないということを考えると、ここで「不正の富」という言葉は基本的には一般に流通しているお金と考えることができると思います。

話の内容は管理者として失敗をした人が、クビにされることがわかりそこから先の事を考えた時、彼は主人に借財のある人たちに対して大割引をして、いわば「楽をさせ」「もうけさせる」のです。

そうすることで、彼がクビになったあと、借財を免除してもらった人と親しくなれるし、お世話になれると考えたのです。相手に得をさせ、儲けさせることで自分も彼らに恩を売ることになり、きっと面倒を見てもらえると考えたのです。

誰かのためにお金を使うという発想は、多くの場合「施し」のなかで生かされています。

パウロはこう語りました。コリントの信徒への手紙第二 9 章 6 節から

6 つまり、こういうことです。惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。7 各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。8 神は、あなたがたがいつもすべての点ですべてのものに十分で、あらゆる善い業に満ちあふれるように、あらゆる恵みをあなたがたに満ちあふれさせることができになります。

9「彼は惜しみなく分け与え、貧しい人に施した。
彼の慈しみは永遠に続く」

と書いてあるとおりです。10 種を蒔く人に種を与え、パンを糧としてお与えになる方は、あなたがたに種を与えて、それを増やし、あなたがたの慈しみが結ぶ実を成長させてくださいます。11 あなたがたはすべてのことに富む者とされて惜しまず施すようになり、その施しは、わたしたちを通じて神に対する感謝の念を引き出します。

マタイによる福音書 10 章 42 節には

はっきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

世の中の人々は単純に損得勘定で「相手に儲けさせ」その「恩義」を報酬として頭に入れるという発想が得意です。

イエス様は、私達も、神に愛されている者として損得ではなく純粋な愛をもって相手に益をもたらす発想をもつべきだと教えているのです。

それはゆくゆくは自分たちの大きな祝福にもなっていくのだと教えているのです。

私達に託されている時間、お金、能力などを自分だけのためではなく

他者のために用いることを今までよりほんの少し、心に留め

実行することが出来たら、この箇所のレッスンを経験できるのだと

思います。無理強いではなく、嫌々ながらもなく、自発的にというのが

とても大切ですね。

すこし「時間」「お金」「能力」がどのように用いられているか

吟味してみましょう。

もし、心に促しがあったら、他者のために少し、それらを分かち合えたらいいですね。

パウロの言葉を書いておきます。テモテに書き送った手紙です。

17 この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。 18 善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。 19 真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くようにと。

(テモテへの手紙第一 6 章 17～19 節)

+++

MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/LL7F6VMCo70>